



2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年11月8日

上場会社名 株式会社ダスキン 上場取引所 東
コード番号 4665 URL <https://www.duskin.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 大久保 裕行
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営企画部長 (氏名) 江村 敬一 TEL 06-6821-5071
四半期報告書提出予定日 2023年11月13日 配当支払開始予定日 2023年12月8日
四半期決算補足説明資料作成の有無: 有
四半期決算説明会開催の有無: 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	85,821	4.8	2,947	△44.4	4,104	△38.2	2,648	△41.6
2023年3月期第2四半期	81,913	2.1	5,300	△16.5	6,640	△11.5	4,533	△12.4

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 4,851百万円 (8.8%) 2023年3月期第2四半期 4,459百万円 (△28.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	54.97	54.95
2023年3月期第2四半期	91.65	91.61

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	195,111	152,768	78.1
2023年3月期	197,524	151,774	76.6

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 152,358百万円 2023年3月期 151,360百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	40.00	—	48.00	88.00
2024年3月期	—	35.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	63.00	98.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 有

配当予想の修正については、本日(2023年11月8日)公表いたしました「創業60周年記念配当の実施(配当予想の修正)に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 2024年3月期(予想) 期末配当金の内訳 普通配当 43円00銭 記念配当 20円00銭

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	178,700	4.8	4,500	△47.9	6,500	△42.9	4,400	△38.9	90.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	50,994,823株	2023年3月期	50,994,823株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	2,937,950株	2023年3月期	2,492,646株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	48,187,709株	2023年3月期2Q	49,462,496株

※四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想等の将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(第2四半期連結累計期間)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(第2四半期連結累計期間)	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2023年4月1日～2023年9月30日)における我が国経済は、5月に新型コロナウイルス感染症(以下「コロナ」という。)の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)」が定める五類感染症への移行、雇用・所得環境の改善等の下で緩やかながらも回復基調となりました。一方、ロシア・ウクライナ情勢の長期化、エネルギー価格や原材料価格の高騰、円安進展等の下振れリスクを抱え、先行きの不透明感が高い状況が続きました。

そのような環境の中、長期戦略「ONE DUSKIN」の最終第3フェーズ「中期経営方針2022」(2023年3月期～2025年3月期)の2年目を迎えた当社は、訪販グループにおいては、サステナブルな洗浄・物流体制を目指して前期に開始した、マット・モップへのRFID(電子タグ)取り付けの本格化、前期に直営及び関係会社で検証を進めたクリーンサービス事業(ダストコントロール商品のレンタルと販売)家庭用営業専任組織の加盟店への拡大を図り、フードグループにおいては、ミスタードーナツの顧客体験(CX)価値向上を目指した「Uber Eats」「Wolt」によるデリバリーサービスを新たに導入しました。更には、地域社会における新事業の創出等産業振興に寄与し、関西の地域経済活性化や雇用確保に貢献していくことを目的とした、池田泉州キャピタル株式会社が運営する「関西イノベーションネットワーク2号投資事業有限責任組合」への出資等、基本方針に沿った取り組みを進めました。また、営業車両のEV化(電気自動車への切り替え)実証実験を開始する等、CO2排出量削減に向けた取り組みにも注力しました。

当第2四半期連結累計期間は、訪販グループ、その他が減収となったものの、フードグループが増収となったことにより、連結売上高は前年同期から39億8百万円(4.8%)増加し858億21百万円となりました。利益面につきましては、フードグループの増収に伴う売上総利益の増加があったものの、訪販グループが計画に沿って戦略的投資(RFID(電子タグ)取り付け)を進めたことで原価が大幅に増加したこと等により、連結営業利益は前年同期から23億52百万円(44.4%)減少し29億47百万円、連結経常利益は前年同期から25億36百万円(38.2%)減少し41億4百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期から18億84百万円(41.6%)減少し26億48百万円となりました。

(単位：百万円)

	前第2四半期 (2023年3月期第2四半期)	当第2四半期 (2024年3月期第2四半期)	増 減	
			増 減	増減率 (%)
連結売上高	81,913	85,821	3,908	4.8
連結売上総利益	37,756	36,887	△869	△2.3
連結営業利益	5,300	2,947	△2,352	△44.4
連結経常利益	6,640	4,104	△2,536	△38.2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,533	2,648	△1,884	△41.6

<セグメント毎の状況>

セグメント別売上高

(単位：百万円)

	前第2四半期 (2023年3月期第2四半期)	当第2四半期 (2024年3月期第2四半期)	増 減	
			増 減	増減率 (%)
訪販グループ	54,188	53,434	△754	△1.4
フードグループ	21,359	25,944	4,585	21.5
その他	8,029	7,799	△229	△2.9
小計	83,577	87,178	3,601	4.3
セグメント間取引消去	△1,664	△1,357	306	—
連結売上高	81,913	85,821	3,908	4.8

(注)各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

セグメント別営業利益

(単位：百万円)

	前第2四半期 (2023年3月期第2四半期)	当第2四半期 (2024年3月期第2四半期)	増 減	
			増 減	増減率 (%)
訪販グループ	5,081	2,620	△2,460	△48.4
フードグループ	2,431	3,109	678	27.9
その他	443	243	△199	△45.1
小計	7,955	5,973	△1,982	△24.9
セグメント間取引消去 及び全社費用	△2,655	△3,025	△370	—
連結営業利益	5,300	2,947	△2,352	△44.4

(注)各セグメントの営業利益は、セグメント間の取引を含んでおります。

①訪販グループ

訪販グループは、主力のクリーンサービス事業が減収となったこと等により、売上高は前年同期から7億54百万円(1.4%)減少し534億34百万円となりました。利益面につきましては、計画に沿って進めているRFID(電子タグ)取り付けに伴う原価上昇等により営業利益は前年同期から24億60百万円(48.4%)減少し26億20百万円となりました。

家庭向け、事業所向け共に減収となった訪販グループ主力のクリーンサービス事業の売上は前年同期に比べて営業日数が少なかったこと等により減少しました。

家庭向け商品につきましては、リニューアル後に販売が好調だった「ロボットクリーナーSiRo」や蛇口直結タイプの小型浄水器の売上が減少したことに加え、前期7月1日からの価格改定に備えて台所用スポンジ等の駆け込み需要があったこと等で売上は減少しました。しかしながら、前期から展開しております営業専任組織は、当期より加盟店へ拡大展開しており、新しいお客様作りの活動で成果を挙げつつあります。

第1四半期は増収だった事業所向け商品は、第2四半期累計では減収となりました。依然高い衛生対策ニーズの下で、抗菌・抗ウイルス加工を施した高機能マットは好調に推移しているものの、空気清浄機「クリア空感」の売上が減少したこと等により、全体の売上は減少しました。

ケアサービス事業(役務提供サービス)のお客様売上につきましては、「ホームリペア」(住まいのピンポイント補修)は減少したものの、「サービスマスター」(プロのお掃除サービス)ではエアコンクリーニングが好調に推移した他、「メリーメイド」(家事代行サービス)、「ターミニックス」(害虫獣の駆除と総合衛生管理)、「トータルグリーン」(緑と花のお手入れサービス)は拠点数の増加等により増加しました。

訪販グループのその他の事業につきましては、イベントがコロナ拡大以前の状況に戻りつつあり第1四半期は増収だったレントオール事業(日用品・イベント用品等のレンタル)が、コロナワクチン接種会場のサービス受注が減少したことにより減収となった他、化粧品関連事業が減収となりましたが、引き続き好調を維持しているヘルスレント事業(介護用品・福祉用具のレンタルと販売)、ユニフォーム関連事業、ライフケア事業(ご高齢者の暮らしのお手伝い)は増収となりました。

②フードグループ

フードグループは、主力事業であるミスタードーナツの全店合計お客様売上が増加し、原材料売上、ロイヤルティ売上が増加したこと等により、売上高は前年同期から45億85百万円(21.5%)増加し259億44百万円となりました。営業利益は、販売商品構成の変化等により原価率が上昇したことや人件費等の増加影響があったものの、売上増加に伴う粗利の増加により前年同期から6億78百万円(27.9%)増加し31億9百万円となりました。

ミスタードーナツは前期からの好調を維持しており、来店お客様数、お客様単価とも前年同期を上回った結果、1店当たりのお客様売上は前年同期を上回りました。また、新規出店により稼働店舗数が増加し、全店合計お客様売上も前年同期を上回りました。商品別に見ますと、7年目となった宇治茶専門店「祇園辻利」との共同商品開発の取り組み「miso meets 祇園辻利」は、当期もお客様から大変支持されました。また、定番商品周年企画として6月に発売したボン・デ・リング20周年記念商品「白いボン・デ・リング」、8月に第2弾として発売したフレンチクルーラー50周年記念商品「生フレンチクルーラー」は、共に大変好評で、売上増加に大きく寄与しました。更には、軽食需要に対応する「ミスドゴハン」シリーズとして6月に発売した「ザクもっちリング」、8月に発売した毎秋恒例の「さつまいもド」も売上増加に寄与しました。

フードグループのその他の事業は、店舗数が減少したパイ専門店「パイフェイス」は減収、とんかつレストラン「かつアンドかつ」は増収となりました。

③その他

その他は、国内連結子会社の売上高が増加したものの海外事業の売上高が減少したことで、全体の売上高は前年同期から2億29百万円(2.9%)減少し77億99百万円となりました。営業利益は、減収に伴う粗利減少に加え、国内の連結子会社の人件費等の増加影響もあって、前年同期から1億99百万円(45.1%)減少し2億43百万円となりました。

国内で展開している、病院施設のマネジメントサービス(株式会社ダスキンヘルスケア)、並びにリース及び保険代理業(ダスキン共益株式会社)は共に増収となりましたが、人件費の上昇等により原価、経費が増加し減益となりました。

海外事業につきましては、中国でのダストコントロール商品のレンタルと販売(楽清(上海)清潔用具租賃有限公司)は増収となりましたが、楽清香港有限公司(清算予定)から調達していたペーパータオルを国内調達に変更したことに加え、マレーシアを中心にドーナツ事業を展開しているBig Appleグループがコロナ拡大の収束に伴うお客様の行動変化による来店お客様数減少により減収となったことで、前年同期の売上を下回る結果となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産残高は、1,951億11百万円となりました。前連結会計年度末(以下「前期末」という。)と比較して24億13百万円減少しております。その要因は、現金及び預金が25億84百万円、有価証券が17億67百万円減少したことに対し、投資有価証券が14億21百万円増加したこと等であります。

負債残高は423億43百万円となり、前期末と比較して34億7百万円減少しております。その要因は、未払金が24億46百万円、賞与引当金が9億71百万円減少したことに対し、繰延税金負債が13億91百万円増加したこと等であります。

純資産残高は1,527億68百万円となり、前期末と比較して9億94百万円増加しております。その要因は、その他有価証券評価差額金が22億82百万円増加したことに対し、自己株式の取得等により、自己株式が14億81百万円増加(純資産は減少)したこと等であります。

(3) 連結業績予想等の将来予測情報に関する説明

2024年3月期(2023年4月1日～2024年3月31日)通期の業績予想(連結・個別)につきましては、食品やサービス、電気・ガス等、原材料価格や物流費の高騰を受けた幅広い分野で値上げが続く状況等に鑑み、現時点では各セグメントの売上動向等を見極める必要があると判断し、2023年5月15日に公表した従来の予想を変更しておりません。

上半期の売上動向及び経費使用状況を勘案し、各セグメントの下半期業績予想を見直した結果、通期連結業績におけるセグメント別内訳は、下記のとおり修正することといたします。

下半期売上高につきましては、上半期の状況に合わせて、訪販グループを下方修正、フードグループ及びその他は上方修正いたします。

下半期の営業利益につきましては、RFID(電子タグ)取付費用の下半期への持ち越し、ミスタードーナツ事業の宣伝広告費の一部使用時期を下半期としたことを織り込んだ他、ミスタードーナツのドリンク価格改定対応の宣伝広告費の使用や原材料高騰等による原価率の悪化も見込み、売上が上振れるフードグループの営業利益も下振れる見込みです。なお、2023年10月27日に開示いたしました株式会社JPホールディングスとの業務提携及び同社株式の一部取得の影響も織り込んでおりますが、当期の業績に与える影響は軽微であります。

通期業績予想につきましては、今後、修正の必要が生じた場合、速やかにお知らせいたします。

(単位：百万円)

			通期予想		
			2023年5月15日 公表①	2023年11月8日 ②	修正額 ②-①
連結	訪販グループ	売上高	113,100	109,200	△3,900
		営業利益	4,500	4,100	△400
	フードグループ	売上高	52,900	56,700	3,800
		営業利益	5,600	6,300	700
	その他	売上高	16,000	15,300	△700
		営業利益	800	600	△200
	セグメント間 取引消去及び 全社費用	売上高	△3,300	△2,500	800
		営業利益	△6,400	△6,500	△100
		売上高	178,700	178,700	—
		営業利益	4,500	4,500	—

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,207	15,623
受取手形、売掛金及び契約資産	11,553	10,907
リース債権及びリース投資資産	1,003	1,023
有価証券	19,864	18,097
商品及び製品	8,212	8,812
仕掛品	290	288
原材料及び貯蔵品	2,629	3,060
未収入金	5,666	5,994
その他	1,707	1,921
貸倒引当金	△13	△13
流動資産合計	69,122	65,715
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	45,027	45,554
減価償却累計額	△30,546	△31,104
建物及び構築物（純額）	14,481	14,450
機械装置及び運搬具	26,141	26,962
減価償却累計額	△18,754	△19,300
機械装置及び運搬具（純額）	7,386	7,662
土地	22,439	22,439
建設仮勘定	320	408
その他	15,715	16,251
減価償却累計額	△11,267	△11,665
その他（純額）	4,448	4,586
有形固定資産合計	49,076	49,546
無形固定資産		
のれん	253	270
ソフトウェア	5,645	5,283
その他	1,556	1,562
無形固定資産合計	7,454	7,116
投資その他の資産		
投資有価証券	61,743	63,164
退職給付に係る資産	2,987	2,991
繰延税金資産	887	919
差入保証金	5,260	5,009
その他	1,012	667
貸倒引当金	△19	△19
投資その他の資産合計	71,871	72,733
固定資産合計	128,402	129,396
資産合計	197,524	195,111

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,594	7,096
未払法人税等	1,147	704
賞与引当金	4,022	3,051
未払金	9,759	7,312
レンタル品預り保証金	8,771	8,686
その他	5,537	5,124
流動負債合計	36,832	31,975
固定負債		
長期借入金	1,115	892
退職給付に係る負債	5,850	6,037
資産除去債務	607	640
長期預り保証金	982	1,043
長期未払金	9	9
繰延税金負債	352	1,744
固定負債合計	8,917	10,367
負債合計	45,750	42,343
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	11,088	11,091
利益剰余金	124,943	125,240
自己株式	△7,102	△8,583
株主資本合計	140,282	139,101
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,532	10,815
繰延ヘッジ損益	△0	△0
為替換算調整勘定	245	420
退職給付に係る調整累計額	2,300	2,021
その他の包括利益累計額合計	11,078	13,256
新株予約権	49	49
非支配株主持分	364	360
純資産合計	151,774	152,768
負債純資産合計	197,524	195,111

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	81,913	85,821
売上原価	44,156	48,933
売上総利益	37,756	36,887
販売費及び一般管理費	32,456	33,939
営業利益	5,300	2,947
営業外収益		
受取利息	75	111
受取配当金	194	195
設備賃貸料	90	83
受取手数料	135	130
持分法による投資利益	299	378
その他	692	455
営業外収益合計	1,487	1,354
営業外費用		
支払利息	0	0
設備賃貸費用	59	53
その他	87	144
営業外費用合計	147	197
経常利益	6,640	4,104
特別利益		
固定資産売却益	3	1
特別利益合計	3	1
特別損失		
固定資産売却損	0	—
固定資産廃棄損	24	46
減損損失	30	—
関係会社清算損失引当金繰入額	16	—
特別損失合計	72	46
税金等調整前四半期純利益	6,571	4,059
法人税等	2,014	1,388
四半期純利益	4,557	2,671
非支配株主に帰属する四半期純利益	24	22
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,533	2,648

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	4,557	2,671
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	166	2,296
為替換算調整勘定	204	87
退職給付に係る調整額	△564	△277
持分法適用会社に対する持分相当額	96	73
その他の包括利益合計	△97	2,180
四半期包括利益	4,459	4,851
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,427	4,826
非支配株主に係る四半期包括利益	32	24

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年11月8日開催の取締役会決議に基づき、当第2四半期連結累計期間において自己株式527,000株の取得を行いました。この結果、「従業員持株会信託口」が保有する当社株式の処分等による増減も含めて自己株式が1,481百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が8,583百万円となっております。

(セグメント情報等)

セグメント情報

①前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

イ. 報告セグメント毎の売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注3)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注4)
売上高						
クリーンサービス事業	40,020	—	—	40,020	—	40,020
ケアサービス事業	6,728	—	—	6,728	—	6,728
ミスタードーナツ事業	—	20,494	—	20,494	—	20,494
その他	7,105	856	5,578	13,540	—	13,540
顧客との契約から生じる収益	53,853	21,350	5,578	80,783	—	80,783
その他の収益(注2)	—	—	1,130	1,130	—	1,130
外部顧客への売上高	53,853	21,350	6,708	81,913	—	81,913
セグメント間の内部売上高 又は振替高	334	8	1,320	1,664	△1,664	—
計	54,188	21,359	8,029	83,577	△1,664	81,913
セグメント利益又は損失(△)	5,081	2,431	443	7,955	△2,655	5,300

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. 「その他の収益」は、事務用機器及び車両のリースから発生しております。

3. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,655百万円には、セグメント間取引消去16百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△2,671百万円が含まれております。

4. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

ロ. 報告セグメント毎の固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

なお、のれんの当第2四半期連結累計期間の償却額及び当第2四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位: 百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第2四半期連結累計期間償却額	42	6	5	—	55
当第2四半期連結会計期間末残高(注)	219	21	52	—	294

(注)当第2四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高209百万円(訪販グループ)、21百万円(フードグループ)、2017年2月に取得したBig Apple Worldwide Holdings Sdn. Bhd. ののれん残高52百万円(その他)であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

②当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

イ. 報告セグメント毎の売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注3)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注4)
売上高						
クリーンサービス事業	39,202	—	—	39,202	—	39,202
ケアサービス事業	6,917	—	—	6,917	—	6,917
ミスタードーナツ事業	—	25,034	—	25,034	—	25,034
その他	7,011	888	5,627	13,527	—	13,527
顧客との契約から生じる収益	53,131	25,923	5,627	84,682	—	84,682
その他の収益(注2)	—	—	1,138	1,138	—	1,138
外部顧客への売上高	53,131	25,923	6,766	85,821	—	85,821
セグメント間の内部売上高 又は振替高	303	21	1,033	1,357	△1,357	—
計	53,434	25,944	7,799	87,178	△1,357	85,821
セグメント利益又は損失(△)	2,620	3,109	243	5,973	△3,025	2,947

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. 「その他の収益」は、事務用機器及び車両のリースから発生しております。

3. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,025百万円には、セグメント間取引消去18百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△3,044百万円が含まれております。

4. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

ロ. 報告セグメント毎の固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

なお、のれんの当第2四半期連結累計期間の償却額及び当第2四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位: 百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第2四半期連結累計期間償却額	51	3	5	—	60
当第2四半期連結会計期間末残高(注)	218	11	40	—	270

(注)当第2四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高214百万円(訪販グループ)、11百万円(フードグループ)、2017年2月に取得したBig Apple Worldwide Holdings Sdn. Bhd. ののれん残高40百万円(その他)であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。